

平成22年度（4～9月期）

事業報告書

（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

平成22年11月18日
公益財団法人 国際科学技術財団

1. 顕彰事業

1-1 2010年(第26回)日本国際賞の授賞

4月21日、東京・隼町にある国立劇場において天皇皇后両陛下ご臨席のもと来賓多数を招待して、第26回日本国際賞の授賞式を挙行了た。

第26回の受賞者は、工業生産・生産技術分野から垂直磁気記録方式の開発による高密度磁気記録技術への貢献により岩崎俊一博士(日本)及び生物生産・生命環境分野から窒素などの物質循環解析に基づく地球環境問題解決への貢献によりピーター・ヴィトーセク博士(アメリカ合衆国)であった。この授賞式を中心として4月19日から24日までを日本国際賞週間とし、下記行事を実施した。

月 日 (曜)	行 事	場 所
4月19日(月)	財団歓迎レセプション	ホテルニューオータニ
	米国大使館レセプション	米国大使館
4月20日(火)	日本学士院表敬訪問	日本学士院
	総理大臣表敬訪問	官邸
	学術懇談会・懇親会	ホテルニューオータニ
4月21日(水)	授賞式	国立劇場
	祝宴	ホテルニューオータニ
4月22日(木)	受賞記念講演会	有楽町朝日ホール
4月23日(金)	個別インタビュー	ホテルニューオータニ
	京都へ移動	
4月24日(土)	京都市内観光	桂離宮・大宮仙洞御所
	松下真々庵訪問	松下真々庵
	パナソニック招宴	つる家
4月25日(日)	帰国	

1-2 2011年(第27回)日本国際賞の審査

小宮山宏氏を委員長とする2011年(第27回)日本国際賞審査委員会の委員31名が内外から寄せられた受賞候補669件に対し、下記日程のとおり2009年12月から審査委員会を開催し、2010年7月に両部会から審査委員会に対する、中間報告を行った。(最終報告は10月14日)

審査委員会	情報・通信 部会	生命科学・医学 部会
2009年12月9日(水)		
	2010年3月31日(水)	2010年3月31日(水)
	5月13日(木)	5月10日(月)
	6月17日(木)	6月28日(月)
7月15日(木)		
	7月28日(水)	7月26日(月)
	9月1日(水)	9月9日(木)
10月14日(木)		

1-3 2012年(第28回)日本国際賞授賞対象分野の選考

委員長を矢崎義雄氏、副委員長を白井克彦氏とする委員11名からなる分野検討委員会において2012年(第28回)日本国際賞授賞対象分野の選考が行われ、また、分野選定に関する今後の方向性も併せて検討した。

1-4 日本国際賞推薦人専用WEB推薦システム

推薦者の推薦書及び関連資料作成と送付の負担軽減を目的とした「日本国際賞推薦人専用WEB推薦システム」(JPNS)を昨年から導入しているが、更なる利便性並びに確実性を求めるために改良を重ねた。

2. 研究助成事業

2-1 2011年研究助成事業の実施について

2012年の日本国際賞授賞対象分野である「情報・通信」及び「生命科学・医学」の分野領域を研究し、勤務先機関の長から推薦があった研究者は情報・通信部会で28件、生命科学・医学部会では84件の応募があり、それぞれの分野に対し各5名の選考委員会委員が選考を行い、下表の研究助成対象予定者20名を最終候補とした。

情報・通信 部会 (10名)	
氏名	勤務先・職名
岩崎 慶	和歌山大学システム工学部准教授
加藤 雄一郎	東京大学大学院工学系研究科准教授
後藤 佑介	岡山大学大学院自然科学研究科助教
高橋 康宏	岐阜大学工学部助教
田邊 孝純	慶應義塾大学理工学部専任講師
塚本 和也	九州工業大学大学院情報工学研究院助教
テーブウィロー ジャンボニ ニワット	三重大学大学院工学研究科助教
西山 大樹	東北大学大学院情報科学研究科助教
野津 亮	大阪府立大学大学院工学研究科助教
鷲崎 弘宜	早稲田大学基幹理工学部准教授
生命科学・医学 部会 (10名)	
氏名	勤務先・職名
飯田 敦夫	京都大学大学院医学研究科グローバルCOE研究員
池ノ内 順一	京都大学化学研究所准教授
伊藤 孝	千葉大学大学院医学研究院グローバルCOE特任研究員
井上 信一	杏林大学医学部助教
内藤 篤彦	大阪大学大学院医学系研究科特任助教
中野 敏彰	広島大学大学院理学研究科助教
松下一史	兵庫医科大学先端医学研究所助教
村山 正宜	(独)理化学研究所脳科学総合研究センターチームリーダー
山越 貴水	(財)癌研究会癌研究所研究員
渡邊 裕介	東北大学加齢医学研究所助教

3. 科学技術啓発事業

3-1 やさしい科学技術セミナーの開催

一般の方を対象とした、私たちの生活に関わりのある様々な分野の科学技術について、専門家がやさしく解説する「やさしい科学技術セミナー」を下記の方々を講師として招き、地方での開催も含め実施した。

回数	開催日	開催場所	講師	勤務先
200	6月13日	日本科学未来館	大河内 直彦	(独) 海洋研究開発機構 海洋・極限環境生物圏領域海洋環境・ 生物圏変遷過程研究 プログラムプログラムディレクター
201	7月23日	(独) 海上技術安全研究所	松尾 宏平	(独) 海上技術安全研究所 構造・材料部門研究員
202	8月3日	泉ガーデン	片田 和広	藤田保健衛生大学医学部放射線医学 教授
203	8月9日	京都大学	田中 一生	京都大学大学院工学研究科助教
204	9月11日	東京大学	松永 茂樹	東京大学大学院薬学系研究科講師

3-2 受賞記念講演会の開催

第26回日本国際賞受賞者による受賞記念講演会を4月22日、有楽町朝日ホールにおいて開催した。

ピーター・ヴィトーセク博士 「島から見た地球の環境変化」

岩崎俊一博士 「垂直磁気記録の開拓と実現」

3-3 学術懇談会の開催

第26回日本国際賞受賞者を中心として、それぞれの分野で受賞者と研究を同じくする日本の第一線研究者に出席を依頼し、学術懇談会を開催した。(4月20日、於：ホテルニューオータニ)

「工業生産・生産技術」 座長 荒川 泰彦 東京大学生産技術研究所教授

「生物生産・生命環境」 座長 北山 兼弘 京都大学大学院農学研究科教授

3-4 スtockホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)への学生派遣

スウェーデン青年科学者連盟より2010年ストックホルム国際青年科学セミナーへの参加依頼があり、2011年(第27回)日本国際賞授賞対象分野を研究又は専攻し、所属大学の学長または学部長からの推薦を受けた学生について、選考を行った結果、東京工業大学の片岡泰之、及び名古屋大学の利根川玲奈の2名を選定した。

両名はノーベル賞の授賞式及び晩餐会の出席を中心に各種行事に参加し、世界各国の参加者と親睦を図り、日本の科学技術の啓蒙に努める。(12月4日～12月12日まで滞在)

4. その他

4-1 新公益法人移行について

平成21年7月より移行準備委員会を設置し、移行の準備を進めてきたが、本年6月30日に公益認定等委員会事務局に対し電子申請を行い、その後9月10日移行認定等委員会の諮問、同月17日認定委員会より内閣総理大臣への答申、同月27日内閣総理大臣からの移行認定書の交付があり、東京法務局港出張所に10月1日付、登記事項変更の申請を行った。

以上